

環境大臣 伊藤 信太郎 様

要望書

2023年12月6日

捕殺を強化しても、人身事故はなりません
棲み分け・共存のため ①被害対策・環境整備
②生息地・えさ場復元に
予算を使ってください



～クマたちが造る豊かな水源の森を次世代へ～
一般財団法人 日本熊森協会（実践自然保護団体）
（本部事務所）〒662-0042 兵庫県西宮市分銅町1-4
Tel : 0798-22-4190 Fax : 0798-22-4196
Mail: contact@kumamori.org
会長 室谷 悠子（弁護士）
設立 1997年 会員約 20000人

●環境破壊による奥山荒廃と、今夏の異常高温でブナ、ミズナラ、コナラが実をつけなかったことによる、極端なエサ不足がクマの異常出没の原因です

戦後の拡大造林後にできた放置人工林の深刻な荒廃や道路、ダム、リゾート施設などの奥山の大规模開発に加え、近年は、急激な地球温暖化の影響と考えられるナラ枯れの大発生、花粉を運ぶ昆虫の激減による山の生産力の減少、それに追い打ちをかけるような大规模風力発電施設の建設等の奥山での再エネ開発などにより、クマの本来の生息地に十分なエサ資源と生息環境がありません。そのため、クマは、過疎と高齢化の進む集落周辺に移動しており、ドーナツ化現象が起きていると考えられます。

過去を調べるとブナの豊作年の次の年でも、今年のようなクマの大量出没は起きていません。本来の生息地の荒廃に、今夏の異常高温が加わり、秋の冬ごもり前に過去にないエサ不足が起き、今回の事態を引き起こしました。

人身事故が過去最多になり、クマを鳥獣保護管理法上の「指定管理鳥獣」にすべきとの動きが出ていますが、クマは、シカ・イノシシと異なり、生息数も少なく、繁殖力が弱い動物で、捕殺の強化は地域的な絶滅を招く恐れもあります。

●人身事故を減らすために予算をつけるべきは、餌場の確保とクマを寄せない集落づくり

クマの人身事故の大きな要因は、至近距離でのクマと遭遇してしまう環境が集落や民家の周りにたくさんあることです。クマを寄せ付けない、クマと遭遇しない集落づくりをしなければ、いくら捕殺を強化しても、人身事故は無くなりません。

また、今年のように奥山にエサが皆無のときに、クマが里にまで出ず、食いつなげる環境整備も必要です。

27年間、クマの棲める森づくり、人身事故防止やクマとの共存のための実践活動、調査研究を続けてきた自然保護団体として、以下の通りの対策を要望します。

【人身事故を減らし、人とクマが共存するための提案】

鳥獣被害対策予算、森林整備関連予算、森林環境譲与税などを活用し、短期的にはクマによる人身事故や果樹園などの被害防止、長期的には棲み分け復活のための生息地環境の再生が必要です。以下の対策を実現してください。

1 人身事故や果樹被害を防ぐため、クマ対策専門員を市町村に配置できるよう予算を組んでください

人とクマの至近距離での突発的な遭遇が人身事故の原因です。過疎と高齢化により、草刈りや防除柵の設置、誘引物除去などができなくなっている集落が多くあり、公的支援が不可欠です。捕殺のためではなく、共存のための被害防除と環境整備とそとのための人員配置に予算を使ってください。

環境整備として、訓練をした犬を使うことや技術開発も支援ください。

2 根本対策として、生息地・奥山の広葉樹林の復元を至急進めてください

奥山にクマの生息環境があれば、クマと人は棲み分けて共存することができます。時間はかかりますが、根本対策である放置人工林の広葉樹林化などの生息地復元が急務です。森林環境譲与税を活用し、奥山の広葉樹林化を至急進めてください。これは、保水力豊かな災害に強い森をつくることでもあります。

3 山の実りの凶昨年、集落にクマが出ないよう、山裾に「クマ止め林」が必要です

奥山の自然林劣化の回復には時間がかかります。異常気象は今年だけに限らず、今後も、奥山のエサ不足の発生が予測されます。集落から離れた山裾にカキやクリなどを植え、クマ止め林を作ることは、祖先が実践してきた知恵でもあります。

カキやクリを全て伐採する計画もあると聞いていますが、集落から離れた場所にあるオニグルミやカキ、クリは、集落へクマを近づけないためにも残すべきです

4 指定管理鳥獣にしても人身事故は無くなりません。乱獲を招く大量捕殺を規制してください

本来の生息地で棲めなくて、人里周辺に集まってきているのであれば、捕殺を繰り返しても、また別の個体が出てくるため、人身事故は無くなりません。また、そのような状況での捕獲強化は、乱獲を招き、生息数を激減させることにつながります。

捕獲より先に被害防除、誘引物の除去、追い払いなどの被害対策をすることや、シカ・イノシシ用のくくり罠にかかった個体の放獣などを都道府県に徹底させてください。出てきたら殺すではなく、人の知恵により、クマと人との境界をつくり、クマに出てきてはいけない場所を学ばせることが必要です。

5 クマの生息地での再エネ開発を止めてください

クマの生息地で、山の尾根を削る大規模風力発電や森林伐採を伴うメガソーラー計画が北海道や東北を中心に全国で乱立しています。奥地の乱開発は、クマなどの野生動物を里に追い出すことになり、集落の被害がさらに大きくなります。森林伐採を伴う再エネ開発は、二酸化炭素の吸収源を失うことでもあり、本末転倒です。国として開発できないように規制してください。